



# 實性

平成二十九年 第四号 秋彼岸発行

## 秋のお彼岸のご案内

秋のお彼岸は、秋分の日を中日とした前後三日間の一週間をいいます。

「彼(か)の岸」と書きますが、これは私達の住んでいる世界とは別の、あらゆる苦しみのない世界、つまり極楽浄土を指しています。

経典には、極楽浄土は、はるか十万億土の彼方(かなた)西にあるとされています。そして、夕陽が真西に沈む秋分の日こそが、極楽浄土への願いを確かなものにする日として最も適している、そのように説かれたことに基づいた行事がお彼岸なのです。

ともすれば私達は、極楽往生が叶うかどうか不安に思ったり、または、亡くなられた方への想いを忘れることもあるでしょう。そんな私達にとってお彼岸とは、自身の極楽浄土への往生を願うとともに、亡き人への真心を捧げることができ、とても良い機会です。あなたご自身の、そして、すべて

の人々の極楽往生を願い、先立たれた方々へのご回向のため、共にお念仏を唱え供養いたしましょう。

### 彼岸会法要

## お中日



● 九月二十三日(土) 午前十一時より

お彼岸入り 九月二十日(水)

お彼岸中日 九月二十三日(土)

お彼岸明け 九月二十六日(火)

※お彼岸のお塔婆はお早めにお申し込みください。

本年も七月、八月、両盂蘭盆会法要が厳修されました。両月合わせて三百名様のご参加をいただきました。

盂蘭盆会法要では、「絵で見る日常勤行式」を檀信徒の皆様とご一緒にお唱えいたしました。大変ありがたいことと感謝申し上げます。

今回の偈文は、「三身禮」についてのお話いたしました。

【三身禮】(さんじんらい)

南無西方極樂世界本願成就身阿弥陀仏

南無西方極樂世界光明攝取身阿弥陀仏

南無西方極樂世界来迎引接身阿弥陀仏

○西方の極樂世界で本願念仏往生を示され、極樂世界をおつくりになり、私どもを導いてくださる阿弥陀様に帰依し礼拝いたします。

○西方の極樂世界で無量の光により救って見守ってくださる阿弥陀様に帰依し礼拝いたします。

○西方の極樂世界に必ずお迎えに来て導いてくださる阿弥陀様に帰依し礼拝いたします。

「三身禮」は、阿弥陀様が私どもを救ってくださるために三つの

事柄、「念仏往生」「光明無量」「来迎引接」をしなければなりません。故に私どもは、阿弥陀仏にすべてをお任せすることができなのです。



# 蓮見の会

七月八日（土）吉例の「蓮見の会」開催されました。四十名様程のお客さまでしたが初めて實性寺においでになられた方もいらつしやいました。例年になく、蓮の花は数多く咲きました。

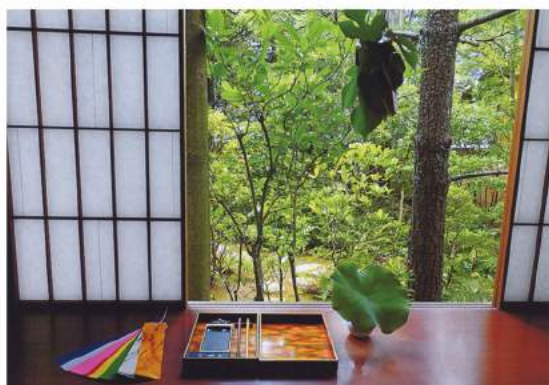
仏教で一番大切なお花、それが蓮の花です。全ての仏様は蓮の台に乗られておいでです。浄土に往生すると、この蓮の掌に座るといわれています。

花はとても美しく、蓮の葉もまたすがすがしいものです。蓮の花を大事に思う一つに、蓮の花は清らかな水の中で育つのではなく、沼や田んぼのような泥の中で花を咲かせます。その美しい花は、汚れた水に触れることなく美しさを保ちます。経の一節に「如蓮華不着水」とあり、私どもの心も同じようにありたいものです。

また、蓮の花は、花をつける前より種を宿しているのとこと、私どもにも生前より善根の根が宿っています。その善の種を大切に育てましょう。

「蓮見の会」では、普段なかなかご案内できないお茶室にて、抹茶を實性寺茶道部がおもてなしさせていただきました。

## お茶室



茶室路地を借景にした書院での飾り



客殿床の間飾り



茶室床飾り

宗紋



浄土宗の紋は「月影杏葉」と呼ばれる紋です。この杏葉は法然上人の生家の漆間家の紋に由来し、大正四年（一九一五）に、蕊を七個とし、宗歌「月かげ」に詠われている「月」を配して現在の紋が定められました。

宗歌

月かげの  
いたらぬさとは なけれども  
ながむる人の 心にぞすむ

法然上人が詠まれた和歌のうちでも代表的な一首で、鎌倉時代の勅撰和歌集『続千載和歌集』にも選ばれています。その詞書に「光明遍照十方世界といえる心を」とあるように、阿弥陀仏の光明は全世界をあまねく照らし、どんな人をも救い取るといふ慈悲の心を歌われたものです。



アメリカ白蓮



剣舞蓮



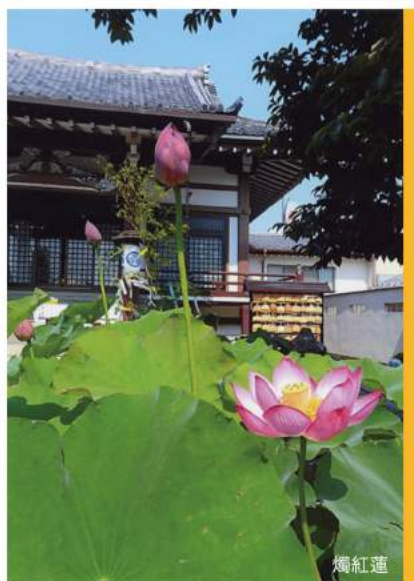
酔妃蓮



大賀蓮



境内の  
蓮  
②



## 法要について

※お申し込みは、日時が重なる場合がありますので、お早めにお問い合わせいたします。

※お位牌・写真をお持ちください。

※清宴を客殿でご希望の場合は、お早めにお問い合わせいたします。

尚、仕出し料理は、指定出入りのお店がございますので、お問い合わせください。

亡くられた方への影膳をご用意ください。

※お供物といたしましては、御本尊様に生花・果実・お菓子をお供えください。

お墓用の生花は、御本尊様生花とは別にご用意ください。

## お墓参り

ご本尊様のおひざもと、ご本尊様に守られて皆様方のお墓がございます。

先ずは、山門をくぐる時に合掌一礼し、本尊様前で合掌一礼して御徳を頂き、その功德をお墓に振り向けます。これを回向と申します。

墓石を清め・花・香・水を差し上げ、お供物を供えます。お菓子・飲み物は、カラスや猫等が荒らしますので必ずお持ち帰りください。

また、古く朽ち果てたお塔婆は、はずして本堂縁の下の塔婆入れに置いてください。

今、こうしてお墓参りの出来る喜びの一端を、ご縁の無いお墓「無縁塔」にお参りください。六地藏尊、子育て水子地藏尊、開山上人墓碑、馬頭観世音菩薩にも、手を合わせたいものです。

お帰りには、またご本尊様に手を合わせます。故にこの場所を「御拝」と申します。



☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です。ご利用下さい。

ファックス番号 03 (3883) 3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八  
電話 03 (3883) 8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

